

Q0：まず簡単に自己紹介をお願いします。

三浦壮太と申します。平成31年(令和元年)修士課程を修了しました。現在は植物の調査を主とした小さな会社で調査員として働いています。

Q1：大学院に進学しようと思った動機は何ですか？

幼少期より生き物が大好きで、野山を駆け回る生活を送っていました。その頃から将来は科学者になりたいとずっと思っていて、研究職に進む為の第一歩として大学院を意識していました(現在は全く違う職業に就いていますが...)。研究室に配属されてからは自身の研究を続けることがとても楽しくて大学院に進学することを決意しました。

Q2：大学院ではどんな研究をどのように行っていましたか？

大学院では島根の北にある隠岐諸島内に侵入した外来植物であるセイタカアワダチソウという植物を研究していました。隠岐諸島は「世界ジオパーク」という自然遺産に指定された豊かな生物多様性を有する島であり、外来植物の侵入は固有種や貴重種への悪影響を及ぼす可能性があります。私は島に侵入したセイタカアワダチソウの侵入状況やその拡散機構を調べる為に、島の中を自転車で走り回って分布状況を確認したり、大学構内のセイタカアワダチソウを掘って地下茎を観察したりして生殖戦略を解明するための研究を行っていました。また、駆除したセイタカアワダチソウを利用できないかと考え、アレロパシーという作用についても研究を行っていました。

Q3：印象に残っているエピソードを教えてください。

印象に残っているエピソードは山のようにありますが、特に印象的なのは修士1年生の時に初めて学会発表をすることになった際の出来事です。発表の為に必要なデータを集めるための実験が成功せず、助けを求めた私に担当教官である林蘇娟先生はいともたやすく実験を成功させて見せてくれました。

そこで私は大学とはプロフェショナルの間近で技術や知識を学べる場所だと強く認識したのです(大学院で気付くのも我ながらどうかと思いますが...)。この出来事がきっかけで、少しでも院生生活が充実した意義のあるものになると積極的に研究を行うようになりました。

Q4：大学院での経験が今の仕事にどのように役立っていますか？

現在は主に植物を中心とした自然環境調査、自然環境の復元や生態系の保全、希少種の保護等に関

する調査・計画、環境アセスメント調査等を行っています。山での調査が多く、道なき道はもちろん、時には身の危険を感じるような崖や急傾斜の箇所でも調査をすることもあります。

出張が多く季節性のある職業の為、業務や調査の工程などを調整する場面が多々あり、その際には学生時代に培ったスケジュール管理の経験が活かしているように思います。また、学生時代の研究同様にフィールドワークなので、ハードな調査も自転車で島を回っていた気合と根性で乗り切っているような気がします。

Q5：これから進学を考える学部生にアドバイスををお願いします。

先述の通り、大学とはプロフェショナルの間近で技術や知識を学べる場所です。また、自分のやりたいことを自由にやる時間がある数少ない場所でもあります。

私は社会人になってからも研究を続けたいと思いましたが、なかなか時間が取れませんが、少しでも自身の研究を続けたい、やりたいことがあるならば是非進学を検討してみてください。学部生時代よりもさらに深く充実した生活が待っていることでしょう。

進学をする方も、進学をしない方も、限りある学生生活がより意義のあるものになるように日本のどこかの山奥からエールを送っています。

October 16, 2022



上写真：大学院時代 下写真：現在の仕事風景  
平成30年度生物資源科学研究科修了 三浦壮太 (Souta Miura)